

令和 5 年 9 月

# 落合諒也 学位論文審査要旨

主 査 谷 口 文 紀  
副主査 黒 崎 雅 道  
同 藤 井 進 也

## 主論文

Amide proton transfer imaging in differentiation of type II and type I endometrial carcinoma: a pilot study

(アミドプロトン移動画像を用いた子宮内膜癌II型とI型の鑑別：試験的研究)

(著者：落合諒也、椋田奈保子、夕永裕士、北尾慎一郎、奥田恭平、佐藤慎也、大石徹郎、三好光晴、野崎敦、藤井進也)

令和4年 Japanese Journal of Radiology 40巻 184頁～191頁

## 参考論文

1. 赤色変性様の画像所見を呈した子宮平滑筋肉腫の1例

(著者：落合諒也、藤井進也、工藤明子、椋田奈保子、村上敦史、福永健、石橋愛)

令和元年 臨床放射線 64巻 1549頁～1554頁

## 審査結果の要旨

本研究は、子宮内膜癌I型とII型の鑑別におけるアミドプロトン移動画像（APT imaging）の有用性を検討したものである。その結果、 $APT_{max}$ がII型子宮内膜癌においてI型よりも有意に高い値を示し、APT imagingが子宮内膜癌I型とII型の鑑別において有用であることを示した。また、APT信号の高い箇所は腫瘍と子宮筋層境界部分に見られ、代謝特性が同一腫瘍内で不均一であることを見だし、不均一性を表現する有用な画像マーカーとなり得ることが示唆された。本論文の内容は、産婦人科画像診断の分野で、子宮内膜癌の治療方針決定に寄与しうる新たな診断技術の可能性、将来性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。